子会社の松浦漢方(本社名古屋市)を統合して製造と販売を一体化。スピーディ な顧客ニーズの実現に一層力を入れている。 - など、市場創出型の高付加価値製品を生み出し続けている。 この4月には販売 松浦薬業(本社名古屋市)は漢方薬、健康食品の中間加工品を手掛けるメーカ 天然物を科学し、創意工夫する「温故創新」の精神で日本初の漢方内服ゼリ

創業。国内産の各種生薬や台湾の海人 古屋・京町(現在の名古屋市中区)で 草、ウコンなどを集荷して医薬品メー カーや薬局に供給した。 「松浦真一商店」として薬問屋街の名 1913 (大正2) 年に生薬問屋

日中友好商社に指定され、中国の貿易 る中国との深い人脈を構築。日中の国 くまでも品質第一をモットー」とし、 る生薬は品質の格差が大きいので、あ 部門や科学研究部門と友好関係を深め 松浦敬一氏は原料輸入の大半を依存す 信用第一の経営を実践した。2代目の た。記録では医薬品分野メーカーの日 交が正常化する10年前の62年に早くも 創業者の松浦真一氏は「天然物であ

> る。 以上あるアイテムを一貫生産してい 健康食品の中間加工品を含め、300 豊町に大型の富貴工場を建設、

包装で足のつりや筋肉のけいれん、腰 ぞうとう)ゼリー」。携帯に便利な個 松永忠功社長は話す。そのなるほどと る商品を開発できれば採用していただ 多く、『なるほど』と思っていただけ 思わせる商品の一つが、創業100周 けるケースが増えている」と3代目の の高齢化問題に直面しているが、その 年の節目に発売した漢方内服ゼリー 一方で「勉強熱心な若い薬剤師さんも 「松浦の芍薬甘草湯 主要な販路である調剤薬局は経営者 (しゃくやくかん

現在は 芍薬甘草湯

ら押し出す際にゼリーが少し砕けなが ら出てくるように設計されているた ぐに飲むことができる。スティックか 痛などの急な症状に対し、 水なしです



水なしで飲める日本初の漢方内服ゼリー

う。

もあったとい

中合作の手伝

いをしたこと

氏は74年に名

また、敬一

古屋市緑区に

上場を建設。

た問屋から、

脱皮を図り、大衆薬メーカーに販路を 生薬を輸入・小分けするのが生業だっ どの中間原料を製造するメーカーへと 広げる礎を築いた。

94年には愛知県武 漢方製剤や抽出エキスな 311

1985年当時の社屋

一体化 顧客ニーズに対応 製造と販売

り固めていきたい。 有望で、まずは社内の人材をしっか 食品の中間加工品は米国市場などが ない。海外輸出はこれからの課題。 スタイルを変えていかなくてはいけ が目的。漢方薬も時代とともに営業 けて社内の意思統一を一層図ること 持たせるほか、製品開発の促進に向 売会社の統合は品質管理に一貫性を 1913年 |薬問屋街の名古屋・京町で「松浦真一商店」創業

の心配もない。

め、誤嚥(ごえん)

ゼリーと同時に発

また、漢方内服

売した濃縮液体タ

イプの漢方製剤

漢方濃縮煎剤シ

1952年 株式会社に転換

1962年 松浦薬業に社名変更

建設(名古屋市緑区)

発センター建設(名古屋市緑区) 1993年 業所を名古屋市昭和区に移転

1994年 富貴工場建設(愛知県武豊町

手軽さで安定した

骨昭質の煎じ薬を

リーズ」は、お湯

に溶くだけという

松浦薬業の歩み

29」、排尿困難や

もんどうとう)

燥感に対応する までに、のどの乾 再現できる。これ

一麦門冬湯(ばく

いる。 う)43」など6アイテムを商品化して を改善する「六君子湯(りっくんしと じんきがん)107」、食欲不振など 頻尿を改善する「牛車腎気丸(ごしゃ

開発を急ぐ構えだ。 は肥満や高脂血症など成人病に関連し た漢方薬の市場性が期待できるとみて これから迎える高齢化社会について

3 代目 まずは人材固 松永忠功さん める

「漢方薬は新しいものが出てこな 扱いやすい製品 中で、とにかく い」と言われる

の開発を進めて いる。今回の販

